

5C⑧キングダムセミナー20250809

5C⑧前半・後半

前半

賛美 9:37.69

はい、皆さんごきげんよう。主にあってごきげんようです。

外はまだまだ真夏の最中ですけど、我々の内側はもっと熱いですか？(笑)

我々の内側は、霊の熱があります。

はい、LINEの皆さんも、いかがですか？祝福します。

1ヶ月前に話したことの復習をしながら、進んでいきたいと思います。

先月は、ちょうどキングダムセミナー本のパート1の後半部分をやっていました。ここは、とっても大事です。それで、何回も、何回も、読んできたんですけど、どうでしょうか？自分の内側に実態として、その存在の中に、生きていますでしょうか？案外、頭では、「うん、うん」なんだけど、毎日の生活の慌ただしさの中では、「ちょっと・・・」ということも、あるでしょう。12:04.27

何が我々の内に起こったのか、・・・もう、単純なことです。

我々は、"キリストにあって"キリストにあるものにされたんですよね。キリストの中に招き入れられたんです。私たちが"どう見ているか"とか、私たちが、"どう見てきたか"というんじゃないんですよ。"神様が、私たちがどう見ているか"というところに『根拠』があるんです。我々がどう感じてしまうかというよりも、先に、神様がそう言われた『神様の見方は、そうなんだ』ということ、自分の中に打ち立てていくことなんです。それが、我々が『主と向き合う』ということですから。

しっかりと、神様と向き合っていると、神様がどういう思いでおられるのかということ、神の言葉を読んだら、私たちは敏感に知ることが出来る。そのために、まず、創世紀をゆっくり読んできました。「神様は、私をそう見ているのか、そう思っているのか。」ということを知ると、じゃあ「私はそれを、受け入れます」と。「神様がそう見ていたんだしたら、私もそうします。」「私は、主の中にいます。」「主の中で、主イエスが、信仰を完全に行なって下さいました。その中に、私はいます。」そして、そこに、本当の安らぎがある。安心がある。平安があるんです。15:02.69

ですから、今生きている私たちの中に『キリストの信仰』を植えていって下さい。我々の信仰は、キリストの信仰を私たちが踏ん張って根性を出して信じて、うんと頑張って、信仰で歩みましたっていうんじゃないんです。主の信仰であって、それを着実に信じていくのです。淡々に行なっていくんです。ここで、ハッキリと言えるのは、私の外にイエス様がおられて、神様がおられて、私は神様から距離があって、イエス様との距離があって、そしてイエス様から離れている私が、イエス様に声をかけ、祈り、神様に、祈るといって、『信仰の対象』として、神様、イエス様があるんだという隔たりのある思い、その中で、「ああ、祈らなくっちゃ、祈らなくっちゃ」と、我々は頑張るんですか？イエスの中、神の中にいるんだしたら、そんな距離的隔たりがあるような感じで、語りかける必要があるんですか？語りかけるのはいいんですけど、そこには距離がないでしょ。どうしても、距離がある、あそこにある「あの神様に祈りに行こう」と、「拝みに行

こう」と言う、偶像礼拝的『根性』が、人間の中には染み付いているから、なかなかそこから離れられない。 17:39.33

だったら、『私たちが主におり、主が私達の中にいる』ということが、どうして分かるんですか？っていうことを、この前も聞きましたけれど、聖書の答えは何ですか？それは、『聖霊による』ということです。聖霊が、我々の内にいて下さる。イエス様の『完全な信仰』、『十字架の信仰』を知った時に、私達の内に変化が起こって、その信仰を受け取るわけです。Ⅰコリント 12:3[聖霊によらなければ誰も「イエスは主である」とは言えないのです。]とあるように、それは、『聖霊による』のです。 18:59.99

そこで、この点について、初めに、みなさんと確認したいと思うことを、突っ込んでみていきますよ。いいですか？

我々の内にきたその聖霊の"働き"というのは、中心的にどういうふうに聖霊は、働かれるんですか？我々の内に、初めに主を受け入れて、信じる決心をした。それは、『聖霊による』って言っているんだけど、聖霊が、我々を強制的に、ぐいっと首根っこ掴んで、捕まえるの？また、顎を捕まえて「イエス様は、ちょっと勝手に言わせるんです」と、言いますか？そうじゃないでしょ。私たちの『思い』『意思』『決心』で、「イエスは、私の主です」と言ったその時に、私達の信仰は、本物になるんです。 20:19.44

つまり、聖霊が、我々の意思や知識や、心の決心のその『根底』にあるわけでしょ。聖霊が我々のうちに強く働きかけられて、我々がそのように考えられるようになる。受け入れられるようになる。喜んで、主を告白したくなる。それが、我々に対する『聖霊の働き方』ですよね。

ですから、聖霊が、我々を操るようなことはしません。よろしいですか？聖霊は、紳士、淑女ですから、そんな強引な、傲慢なことは、しません。私達が、イエス様を主と、告白しないんだったらそのままです。聖霊は、あなたのほっぺたを、突いたりしません。 21:29.51

この中にも、異言を話す方がいらっしやると思いますが、聖霊が語らせるのであって、自分で語らないでおこうと思ったら、語らないでいられますよね。それと同じで、私たちが黙っていようと思っているのに、勝手に聖霊が、私たちの口を開いて語るようなこと、そんなことはないですよ。聖霊は、我々の"意思"、我々の"思い"というものを無視して、強制なさったりはしません。聖霊は、我々の内側から、"思い"を起こして、私達を助けて下さるのです。 22:35.49

ここで、ひとつ、それを御言葉で、確認してみようと思います。ピリピ2章13節に、[神は、みこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださるのです]とあります。ピリピのこの御言葉を、皆さんよく知っていると思います。あなたがたの内に働いて、あなたがたに、願いを起こさせ、あるいはこれをしようと思わせ、その思う心の『根底』を燃やしてくださるお方なんです。あなたがたの中に働いて、あなたがたが、あたかも自分が志を立て、自分がこういう願いを起こしたかのように・・・自分があれをしたい、これをしたい、このように愛そう、このように助けようと、・・・あたかも、あなたが思い

立ったかのように、神は、あなたの内側に働かれるお方なんだということです。でも、そのように歩いていくには、自分の"思い"という、根底にある"情熱"が大切です。こちらが、ベースです。24：31.88

これまで、「聖霊、聖霊」って、強く言われてきた全盛期から、今までのことを聞くことがあったと思います。また、色々なところで、私たちは、証しを聞いたりします。「聖霊が、私の耳に、かくかく、しかじかと語られました」って。「だから、私はそのように行いました」って言う。「聖霊が、このように私に現れて、私を導いたんだ」と言うんです。あたかも全く自分の願いや思いと関係がなく、考えてもなかったことを、聖霊が突然、ポーンと私の目の前に現れて、何らかのかたちで、または、私達の耳に聞こえる。あるいは、私たちの心にポーンと投げ込んでこられんだとか、・・・そういうことが、ないことは、ありません。可及な場合ね。ないことはありませんが、それが聖霊の私たちに対する現れ方の"すべて"だと思うことはありません。もっと普通に、このように我々の内に働いて、願いや思いを抱かせてくださるのです。あくまで、こちらがベースですから。たとえ、もし外から、あたかも耳に聞こえるかのようにポーンと言われたような出来事があっても、それが本当に聖霊からのものか、吟味するのはあなたですから。我々ですからね。

私もありますよ。ほんと。夜中に道を歩いていると、あたかも耳に聞こえるかのように言われたことがあります。けど、だからと言って、すぐに、それで動きませんでした。自分のすべてを用いてしっかり、吟味しました。27:11.79

吟味した結果、もし、我々の内側に、自分の願いや方向性と違う思いが沸々と溢れてきたら、・・・それが内で起こってきた時、聖霊は、我々の内側で語り、なおかつ、自分は、"自分の思い"をしっかりと持っていることです。そして、それが一致すればいいけれども、違う場合もあるわけです。そうすると、私の内で、私は右だと思っていたのに、左だと言う。どうしよう。・・・「私ね、右だと思ったのに、左だって言われるんだよね」と、人に話しますか？ 私の半分は右と言ひ、私の半分は左という・・・？そしたら、「え？私の内に誰がいるのよ」ってということなの？二重人格ですか？そうじゃないですよ。28:54.75

でもね、それが聖霊との関わりだと思っていたら、こうなります。聖霊は、我々の内側に来てくださって、我々を助けてくださる『助け主』ですから、我々の"思い"や"考え"が、満ち溢れてくる、その『根底の情熱』が、その内側を支えて、私たちを立て上げてくださるんです。私たちの"思い"を築き上げてくださるんです。29:30.01

ですから、「ヨシ、それで行こう！」と。「私は、これで行こう！」と。「私はそう思う。」で、「聖霊の知ってる全てのみことばと総合して、それはいいことではないか」と思う。それで初めてそのように、一歩進んでいく。それには、自分の"思い"というものが大切です。

でも、そこには、集中力が必要ですね。自分の思いというのは、"指示が乱れる"という時があるから。生活の中で、あれやこれのストレス、あれこれの問題が迫ってきた時に、自分の心が乱れて、定まらないという時がある。为什么呢？ 私達の魂の根底に、聖霊が宿って、聖霊は我々を助けてくださっているけれど、私達の昔からのこだわりというのがありますから。みんな自分の魂の部分の気持ち、考え方、癖、我々の内側にある積もり積もった習性ゆえに、我々の魂の硬いこだわりが誰にもありますからね。それが、聖霊

の“思い”で、動こうとした時に、どうしても、そのような“魂のざわつき”が、邪魔をします。

それなので、我々は、そこで、しっかり“思い巡らす”必要があるんです。落ち着いて、『主の中にいる』という『平安の中』に、まずしっかり、『坐り込むこと』は必要ですね。 32:55.08

もう 1 つ、聖霊の“働き”について、聖書に書かれているところを読みたいと思います。

ヘブル人への手紙 の 4 章。これまで、創世紀からずっと、ゆっくり見てきたんですけど、ヘブル人への手紙というのは、創世の初めからの『神の人に対する招き』というものを意識していますから、読める時があれば、ゆっくり読まれると良いと思います。それでは、・・・文脈が大切だから、1 節から見てみますね。

ヘブル 4:1[こういうわけで、神の安息に入るための約束は、まだ残っているのですから、あなたがたのうちのひとりでも、万が一にもこれに入れないうようなことのないように、私たちは、恐れる心を持つてはいませんか]2 節[福音を解き聞かされていることは、私たちも彼らと同じなのです。ところが、その聞いた御言葉も、彼らには益になりませんでした。みことばが、それを聞いた人たちに、信仰によって、結びつけられなかったからです]3 節[信じた私たちは安息に入ります。「私は怒りを持って誓ったように、決して彼らをわたしの安息に入らせない。」と神が言われた通りです。みわざは、創世の初めから、もう、終わっているのです。]4 節[というのは、神は七日目について、ある箇所で、「そして、神は、すべてのみわざを終えて七日目に休まれた」と言われました。]5 節[そして、ここでは、「決して彼らをわたしの安息に入らせない」と言われました]・・・これ、旧約の時代の昔の人々が、かたくなであったということを指していますが、それは、さておいて・・・6 節[こういうわけで、その安息に入る人々がまだ残っており、前に福音を説き聞かされた人々は、不従従のゆえに入れなかったのですから、7 節[神は再びある日を、「きょう」と定めて、長い年月の後に、前に言われたと同じように、ダビデを通して、『きょう、もし御声を声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにすることはしない。』と語られたのです。]36:39.52

“永遠の今日”ですよ。昔はともかく、“永遠の今日”、御声を聞く、招きを聞くならば、あなたの心を固くならしめるにはならないと。主は言い続けておられるわけです。『あなたの心はどこにあるのか』と。『どこに向かっているのか』って。 37:07.46

8 節[もし、ヨシュアが彼らに安息を与えたのであったら、神はそのあとで別の日のことを話されることはなかったでしょう。]9 節[したがって、安息日の休みは、神の民のためにまだ残っているのです。]10 節[神の安息に入ったものならば、神がご自分のわざを終えて休まれたように、自分のわざを終えて休んだはずです。]アレルヤ！

どうですか？ここまでついてきていますか、皆さんは、神が休まれたその“安息にあなたは入った”んですよ。人が造られて、次の日は、7 日目、安息の日だったんですから。あなたの初めにすべきことは、味わうべきことは、『神の安息』なんです。 38:20.27

『永遠の今』という今日の今、この時に、「ああ、そうですか。それじゃあ、私も休みます」と。私たちの決心が生きるんですよ。あそこで、七日目の一番最後の言葉、ヘブライ語の『ラアソート』と言う言葉を覚

5C⑧キングダムセミナー20250809

えていますか？『造るために』という言葉。造るために、『休む』んですよ。あなたの安息は、これからあなたが動き出すための、土台の『土台』なんですよ。

そう言っても、去年までの私は・・・だった、私のあの時代はこうだったと、色々思い出して、『永遠の今』という今日に、ぶつぶつ、ぶつぶつ、それを持ってきていたら、いつまでたっても、今日という日を休めません。そこには、**潔さが必要**です。永遠の今日という日を、自分のわがを全く終えて、休んだはずです。

39:41.30

11 節[ですから、私たちは、この安息に入るよう力を尽くして務め、あの不従順の例に習って、落後する者が、ひとりもないようにしようではありませんか。]12 節[神のことばは、生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心のいろいろな考えやはかりごとを判別することができます。]40:57.26

ここに、[魂と霊、関節と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、]っていう言葉だけど、私たちの古き習い性を引きずった私たちの魂、私たちの思い出、思い、私たちの考えてしまうことを、魂は、持ってますよ。でも、我々の内側の霊が、聖霊は、新しいあなたの生き方を知っている。だから、聖霊に従って、生きようとした時に、そのままストレートに、パッといく時もあるけど、自分の魂が塞ぎ込んで邪魔をして、自分の内なる聖霊の思いの通りに、動こうとしない時がある。

聖霊は、その時、我々の心に喰ってかかって、「お前、何やってんだ、じれったいやつだなあ。」とは、文句を言いません。あなたがじっと、魂のままであるんだったら、聖霊は、じっと待っておられます。42:39.92 でも、ここでいう『**霊的**』な人というのは、その内なる聖霊の思いのままに自分も、そこに乗っかって、同意して、あたかも聖霊の思いは、自分の“心”だ、“思い”だとして、何の矛盾もなく、ストレートに動き、話し、活動を展開する人をいうんです。43:17.84

ところが、我々の古き魂が、それをいちいち、口出して、邪魔をして、ああだこうだと言って、戸惑いを持ってしまう。そして、聖霊の本当の思いじゃなくて、自分の魂に従っていかうとする、魂中心的なことを『魂的』と、いうんです。43:47.03

ですから、クリスチャンは、霊的か肉的吗？という、二つじゃないですよ。クリスチャンが、肉的といったら、よっぽどのことですが、・・・クリスチャンは、霊的なのか、魂的なのか、肉的なのか、自分は、どう進みたいのかを問われています。44:22.66

私たち、兄弟姉妹が、本当に面と向き合って、『我と汝』で、語り合う時、私の魂的な部分っていうのが、相手に分かったら、相手は私にそれを誠意を込めて、「いや、私はこう思うよ」と言って指摘していく。そういう交わりって、いいじゃないですか。何か、自分を良く見せようとして、いい言葉ばかりをバンバン言って、「はい、はい」と言って、ニコニコしているよりも、我々の『魂的』なものを、そっくり、その相手に隠さないで、一緒に乗り越えていけたら、・・・そこまでの交わりっていいですよ。『霊的』であるかのよ

5C⑧キングダムセミナー20250809

うに見せかけて、演技していくなんて、そのこと自体が『魂的』愛です。45:41.74

それから、先程の続きですが、ヘブル4章13節[造られたもので、神の前で隠れおおせるものは、何ひとつなく、神の目には、すべてが裸であり、さらけ出されています。私たちはこの神に対して弁明をするのです。]アーメンですね。ですから、[神の言葉は生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭い]ですから、我々が日々、神の言葉に向き合っていくということが、どんなに幸いなことか。46:21.79

神の言葉は、聖霊の言葉です。我々の知性で、神の言葉を読み、歌うのです。そして、我々の内側にある聖霊が、それに共鳴していくんです。我々が歌う時、そういう、歌っていいですよ。そういう"ひととき"っていいですよ。ひとりで主と交わる時に、そういう"ひととき"っていいですよ。

それから、家でひとりでいる時に、どうぞ異言を用いましょう。ひとりで、霊の歌を歌いましょう。
異言を語る時、霊の言葉が出てくる。その時に、自分の知性で、あなたは魂の思いで、何を考えるか、深くなりますよ。

だから、私はつくづく思います。この主との『相互内在』を、実際、自分の中でしっかり温める時に、まず、どっかの集会に行かなければならないと思う必要はないわけですよ。自分ひとりで充分。そこに父と子と御霊とあなたがいる。その中で、霊で祈り、知性で祈り、異言の解き明かしを願い、そして自分の魂で感じとっていく。"宝の時"になりますから。

さっき、セミナーが始まる前にも言っていたんですけど、又、前々から話があったんだけどね、「この通常のキングダムセミナーのプログラムとは別に、賛美と礼拝の時を、特別プログラムで、もてたらいいいね」っていう話をしていたんだけど、その"賛美"っていうのは、この楽譜になったものを歌うという、それもあるけど、本当に"霊の歌"を、ともに霊の歌を奏でようではありませんか。『詩』と『賛美』と『霊の歌』で、讃えようではありませんか。

そして、「自分の中の魂的な出来合いのストーリーじゃなくて、その場で伴った者たちの霊から解き放たれるメロディーを味わいながら、礼拝を深めていこう。それが我々の一人ひとりの礼拝に、そして益になればいいよね」って、話していたんです。50:39.67

「賛美と礼拝、だけでなく、『異言の祈り』をどう用いていくのか、異言の祈りをどう自分達の礼拝の中で、深めていったらいいのか、という、そういう異言の祈りを深めるための ミーティングが、一つ、あったらいいよね。キングダムセミナーをやりながら、それを深く、自分のものとしていく事が出来たら、いいよね。」

だから、とおり一辺の、「ああ、異言ね、ああ、ふんふん」じゃなくて、聖霊が私たちに与えてくださる賜物を大切に、用いていけたら、もっと、もっと、充分、益になります。「まあ、『異言』で、こんなもんよね」って。「ああ、解き明かしって、こんなもんよね」って、思っていないか？それを超えて、もっと深く進んでいけるようになればなんと、思います。聖霊が、我々の内に、現れて下さる、助けて下さるという

5C⑧キングダムセミナー20250809

ことを、大切にしようではありませんか。52:52.13

我々はキリストの中にある。そして、キリストは我々の内にいる。その親しい臨在の交わりの中から、もっと色んな聖霊の賜物、現れ、導きが、出てくるんです。出てくるけど、それがいちいち、ピックアップされたり、大きなこととされたり、・・・とかじゃなくて、我々の生活の中で、当たり前、それが、使われていくんですよ。小さなことから。そして、そういうことの積み重ねが、自分の人生の節目、節目に、しっかりと現れてくる。刈り取られてくるんです。54:23.17

賛美の歌の中の、信仰の歌、7番《今、目覚めるものよ》を開いて下さい。

今、目覚めるものよ

我が内にありて喜び楽しみなさい。

・・・本当にこれ、神の初めの願いです。いつこれを見て、いつ歌っても。

古きは去りて新たなる世界

衣を脱いだ 新たなる世界

・・・創世記の一番最初のあのところで、何度も言いましたように、神様は地的なこの世界のことを直接言っているわけじゃないからね。この言葉を始めに読んだあなたの心の中に、世界を造り始められたんだと。天と地をあなたの内側に。そして、古きは去りて、今日造ったこの日の中で、喜んで楽しんでいなさいと。でも、我々の古い魂がいうんです。「そうは、言われてもねー」って。必ず、それがついてくる。でも、古い魂のそれについていけないで、主が言われる言葉に耳をそば立てて、傾けて、向き合って、やっていったら、私たちは、変わっていくんです。勝利なんです。『イエス様の恵み』も、『聖霊の恵み』も、父なる神は創造の初めから、きっちり持っておられましたから。57:51.26

だから、何回もここで、言っていますけれど、どうぞ改めて今日という『永遠の今』に、しっかり、「この通りもらいました！」と自分の心の中に入れて、線を引いて、印鑑を押しておくことですよ。

ちょっと、ここの伴奏、いいですか？58:42.19

1番、賛美

今、目覚めるものよ。

わが内にありて 喜び楽しみなさい

古きは去りて 新たなる世界

衣を脱いだ 新たなる世界

アルファであり オメガである

主が ここに おられる

主がここにおられる。今、ここにおられる。今日という日に、この午後、私達がどこにいるのか。

その決心を今、更にしっかり見つめるといことと、・・・それが積み重なって、我々は、変えられていきます。昔は、辛いことがいっぱいあった。非常に苦労した。それはわかります。みんな、それぞれありますよ。でも、それが、今日の日を潰しにかかることを、赦してはいけない。

今日という日に私達は、新しい日を掴み取るんです。そのための神様のやるべきことは、全部、やっ
てくださっているんです。だから、あとは私達が、毎日毎日そこを"決心"する。その積み重ねで、我々は衣
 を、古き衣脱いで、脱いで、脱ぎ捨てて、そして、新しい世界に、新しい靴を履いて、新しい服を着て
 「ヨシ、今日という日は私は、歩んでいきます。」という、この毎日なんです。1:02:28.79

2 番

今日覚めるものよ

我が内にありて 喜び楽しみなさい

主の臨在なる 新たなる世界

永遠に変わらぬ . . .

1日や2日、1週間、1ヶ月で、また変わってしまうんじゃないですよ。

永遠に定められた神の世界。神と神の国の世界です。あつて在るもの、永遠の名が、ここにおられる。

主がここにおられるんです。主の方では、あなたがここにいるというのは、もうしっかり了解済み。見
ておられるんです。だから、今度は、私たちが、「主はここにおられるのです」と。なぜならば、「私が
いるからです」 . . . と言うことです。「私がここにいるから、主は、ここにおられる」と . . . そんな
 こと、わかってるでしょというぐらいに。1:04:06.62

こう、言い放って、いいんですよ。傲慢ですか？いえいえ。『主にあつて』、『主の中で、当たり前だな』
 と。それが、『信仰を使う』ということです。1:04:27.98

はい、2番を歌いましょう。

今日覚めるものよ

我が内にありて 喜び楽しみなさい

主の臨在なる 新たなる世界

永遠に変わらぬ 新たなる世界

有って在るもの 永遠の名

主が ここに おられる

3 番は、

今、目覚めるものよ。

. . . 今日という、この午後のこの今、新たに、「主の中にいる」ということを、主の内なる、私の内に来
 てくださっていることに目覚めた自分が、そういうものなんです。

わが内にありて喜び、楽しみなさい。

愛に満ちた新たなる世界。

光に満ちた新たなる世界。

. . . 愛と光に満ちているって、どんな人にも、これから、今日というこの日の、『主に対する向き合い』
は、愛と光を解き放ってくれるんです。ここから『解き放たれている世界』なんです。

だからね。私たちが過去どうであったとしても、今、私たちがどういう生き方をしているか、どんな生活
 をしているにせよなんです。その場、その時にね、私たちを通して『愛と光が解き放たれていく』のです

5C⑧キングダムセミナー20250809

無から有を生み出される

・・・今まで自分について、考えられなかったようなことが、生み出されてきます。自分を通して。

そんな主が、我が内におられる。

主が ここにおられる

・・・主は、我が内におられる。ここに、我々の『主への向き合いのひと時』に、勘所を捉えて、濃厚なワーシップタイムを持つんですよ。我々は、みんな。1:08:25.94

それは、「周りの人がこうやっているから、「私も』っていう、ノリで乗っていく、連れられていくものじゃないの。周りとはともかく、まず、自分は、この光を解き放ち、無から有を生み出す。この創造性の中に、私はいますと。その一点で自分も掴み取って、歌い放っていくことです。1:09:08.24

あの集会に行ったら、・・・じゃないんです。行ったら、行ったらでも良いけれど、そこに行く自分は、そういう中でも、自分ひとりでも、主の臨在に充足していくものなんです。

あなたがいちいち、主の臨在や雰囲気やモードや勢いを、追いかけて行く必要ないんです。我々の内に、それがあんだということを、しっかり掴み取って、生き生きと、解き放っていくんです。そこに進みましょう。1:09:59.81

はい、第3番歌いましょう。

今、目覚めるものよ

我内にありて 喜び楽しみなさい

愛に満ちた 新たなる世界

光に満ちた新たなる世界

無から有を 生み出される

主が ここに おられる アーメン。

私達は、この愛と光に満ちた世界の中で、互いが互いを自由にします。

もう、あなたがたは自由ですよ。愛と光に満ちている。けれども、向かい合った私達は、さらにそれを、自由にします。妨げのないものにします。光と光がぶつかり合って合わさって、もっと光るんです。

それが我々の出会いなんです。いいですか？出会って、愛に満ちて、・・・だから、「愛されたい」っていうもうそんな欲求はないんです。

愛されているから。我々の欲求は『愛したい』という事なんです。周りを愛したい、周りをもっと自由にしたい。その中で、我々が集まるんだったら集まる。出会うんだったら出会う。・・・ということです。

はい、今日の前半は、このところを中心に、我々の實際を、血と肉とするために使いました。

はい、後半はまた次に進みます。 休憩に入ります。

5C⑧キングダムセミナー20250809

5C⑧後半

前半、話した事は、私がことあるごとに、常に、いろんな方に分かち合ってきていることです。そしてそれは、単なる頭の知識ではなくて、我々の本当に、実質的に、自分の内側そのものとして、共にこのセミナーを学んでいきたいからです。

まず、自分と『主との一致』というところを、しっかりと受け取って、踏み込んで、進んでいきたいという思いから、5 クール目は、パート 1 の途中の《主との 一致》というテーマから、入っています。これが、基本の"き"です。

それでは、本の初めに返って、6 ページ、7 ページを見てください。そこに何が書かれてあるか、何を言おうとしているかということを、それをこれから見ていきたいと思います。1:45.57

7 ページの一番上から、

その**第一段階は、御霊の賜物を、一人ひとりが受け取るという段階**です。信仰を持ち、求めるならば、誰でも賜物を発揮できます。賜物自体は色々ありますが、みな同じ ひとりの御霊によってできるのです。(・・・このパート 1 の初めは、いきなりここに入っているものですから、その前段階として、5 クール目は《主との一致》から、初めました。本の順番としたら、後回しになっています。そんなわけで、本の順番とは違いますが、今回は、順番を変えて始めています。大事な『自分自身と主との関係』というものを、先にやってきたわけです。それで、「自分は、そのように歩み始めましたよ」という、そこから、また、歩みが始まるという、そこなんです。) それで、今日は、6 ページ、7 ページから、始めるんですけど、・・・もう、読んでいただいたら、分かると思います。3:04.64

6 ページの初め《神のプログラムの啓示》

もうそれは世の始まりからそうだったんですけど、とくに、この 20 世紀初頭から世界に起こった聖霊の注ぎは、今や全世界に及びました。キリスト教と言え、精神的救いや、倫理・道徳的な教えと儀式といった一般的なイメージでしたが、聖書にある通りの奇跡・病の癒し・悪霊の追い出し・異言と預言など、様々な神の恵みが、聖霊の注ぎとともに、私たちの生活の現実になり、キリスト教のイメージも名実とともに一変し始めています。

・・・じゃあ、二十世紀初頭の前は無かったかという、そうではありません。初代教会から、ずっとあったことなんです。あったことなんですけれど、とくに、20 世紀の初めから、世界のあちこちに、この"聖霊の注ぎ"ということが現れ始めてきましたよということ。知る人ぞ知ることだと思います。この体験はね、確かに神への信仰を増し加え、神の愛を確信させ、宣教の力となりました。世界的な信仰復興の基本を、聖霊に満たされた大勢のクリスチャンたちは感じ取っています。

しかしながら、喜ばしいこの期待とともに、混乱と沈滞を感じるクリスチャンたちも少なくありません。それは各グループごとに、また個人の内にです。「あんなに喜んで、礼拝できたのに・・・。これで初代教会と同じ恵みを得たと思ったのに・・・。これでもうすべてなのか・・・と。

別に、人間的に、人や教会につまづいたわけではありません。神の奇跡に、人が集まることが嫌になったのでもありません。自分の教会のすべてを肯定できるし、賛美と感謝で過ごしているのです。しかし、それでもなお霊と誠で礼拝すればするほど、あるクリスチャンたちは、さらなる渇きを持っています。これは一体どうしたことなのでしょう？ 《主のプログラム》には終わりがありませんから、永遠ですから、「はい、ここからここまで走ったら、終わりだよ」というそんな区切り、区別はありません。主に近づけば、近づくほど、さらなる渇きを持ってしまう。聖霊に満たされるということは、神へのさらなる渇きを持つようなものなんだと言った人がいます。 7:04.19

私もそうだったんですけど、聖霊に満たされている『印（しるし）』って何だと思いますか？バンバン奇跡を行い、バンバン何か大きな働きをすること？いや、いや、『聖霊に満たされる』というのは、深い永遠の神へ向き合う時の渇き、それが、我々のしたわざや行いに留まらない、こだわらない。行いやわざは、その時の現れの結果ですから。ジョン・ロバート・スティーブンスという人物について、後日、お話しするつもりですが・・・と書いておきながら、本の中に書いてない。それはなぜかというと、・・・この原稿を作る前に、何回もやってた中で、どっかでしゃべっていたんですよ。ところが、この原稿としての中には残ってなかったということです。

その彼、ジョン・ロバート・スティーブンスによると、第1コリントの12章、13章には、『教会の成長の3段階』が揭示されてあるということです。その3段階というものがありますから、渇望して、乾いて、カラカラになっても大丈夫ですよ。それを得ていこうではありませんかと言うことで紹介しているわけです。その3つの段階というのは、ジョン・ロバート・スティーブンスが言っていると、いうことではなくて、新訳聖書の中で、なんとパウロが、そこを解き明かしています。パウロの手紙の中で、この3段階が、何度も書いてあります。ですが、案外、取り上げられていません。私たちの内側に、その3つの段階の射程を据えていこうではありませんか。 10:20.90

どうぞ、聖書が手元にある方は、第1コリント 12章の 4節・5節・6節を見て下さい。ここに、3つ、3段階がテンポよく書かれています。

12章4節[さて、(御霊の)賜物について(=聖霊のくださる恵みについて)は、いろいろの種類がありますが、御霊は同じ御霊です。←色々あるけれど聖霊は、同じ聖霊です。ひとりのお方ですと言っている。]11:44.95

この前半で、我々の内なる聖霊の基本的な我々の恵みを話しましたね。その聖霊は、我々に色んな助けを与えてくださる。その現れは、色んな種類があるんだけど、みんな同じ聖霊ですよ。「ひとりの御霊ですよ」って、言っています。12:20.53

次に 5節、今度ね、[奉仕には色々な種類がありますが、主は同じ主です。]それで、私たちは、恵まれて、人を助け、励まし、いろんな活動、奉仕をする。そのわざにいそしむようになります。そうですね。愛されるよりも愛したいんだもん。“御霊の現れ”によって。そうすると、我々は、集まりを持つ。「あの人、この人と一緒に」と言うことになる。それが教会と呼ばれたりする。何らかのグループになっていく。

5C⑧キングダムセミナー20250809

そして、そこで私がする"役目"っていう役割というか、係というか、主に「こういうことを私はします。」という形になっていく。益になるために、その奉仕には、色々な種類があるけど、それは、バラバラに、みんなが好き勝手やっているように見えるかもしれないけれど、でも、それを一人一人を出会わせて、用いて、動かして、一人一人のわざを、特徴を生かして、周りへの愛の道具として、使っている“ディレクター”がいる。それは、「みんなバラバラに好き勝手やってるんじゃなくて、それをそれぞれをひとつに用いているのは同じ主です。」っていうこと。別の言葉で言えば、キリストの体に我々は組み合わされているんだということ。15:04.86

[奉仕には色々な種類がありますが、主は同じ主です。]で、そんなに我々が、全部分かって、「あの人とこの人と、この人とかう組み合わせあって、こういう風に、出来るよね」って言って、我々がそれぞれが合作して、確約して、やったことではないけれど、自分の内なる御霊が溢れる思いから、行動していく時に、それを組み合わせてくださる方がいる。それは主です。

パウロは、「教会はキリストの体であって、エクレスシアは、キリストの体であって、1つ体なんだ。頭がイエスで、みんなそれぞれが、その主体なんだよ」と言っている。そうやって、「我々は、出会ったら結び合わされていくんだよ。」そして、「キリストの体が現れ、栄光が現れるんだよ」と言っている。16:34.31
4節、5節までは、1段目 2段目になるわけです。

そして、6節には、今度また『働き』って書いてある。奉仕するものが集まって動いていく、『キリストの体の働き』です。我々が組み合わされて動いていく。

6節[働きには、いろいろな種類がありますが、神はすべての人の中で、すべての働きをなさる同じ神です。]あっちこっちに、キリストの体となる組み合わせられた『働き』が起こり、始まっていくんです。それは、世界中に、あっちこっちにです。「そのすべての働きは、いろいろな種類があるけど、その働きの中で、すべての働きをなさるのは、父なる神なんだよ。」とっている。18:09.59

ここで、ちょっと、Iコリント 12章の1節をみて下さい。

[さて、兄弟たち、御霊の賜物についてですが、私はあなたがたに、ぜひ次のことを知っていただきたいのです。]云々とあります。・・・ここは、今、Iコリント 12章の4節・5節・6節でみてきたように、聖霊が働いて、聖霊のわざ、働きが、コリントの教会にはありました。いっぱいありました。「でも、このことをわかっておいてくださいよ」と、ここで大切な3つ（3段階）のことを言っているんです。

それから、4節で、[御霊の賜物には、いろいろな種類がありますが、御霊は、同じ主です。]ということ言ってるのが、7節から11節。この4節の第1段階目をもうちょっと、解説しているのが、7節から11節になるわけです。↓ 19:31:40

7節[しかし、益となるために、おのおのに賜物の現れが与えられているのです。]8節[ある人には、御霊によって、知恵の言葉が与えられ、ほかの人には同じ御霊にかなう知識の言葉が与えられ、]9節[またある人に

は同じ御霊と信仰が与えられ、ある人には、同一の御霊によって、いやしの賜物が与えられ、]10節[ある人には、奇跡を行う力、ある人には預言、ある人には霊を見分ける力、ある人には異言、ある人には異言を解き明かす力が与えられています。]・・・ここにある異言というのは、全体のためのメッセージのための異言のことですよ。個人の礼拝のための異言のことではないです。20:19.74

11節[しかし、同一の御霊がこれらすべてのことをなさるのであって、みこころのままに、おのおのにそれぞれの賜物を分け与えてくださるのです。]・・・これが、4節に書かれていることに対する説明です。20:47.14

そしたら、第2番目はどうなのかというと、5節に書いてある。5節に書かれていることに対する説明は、12節からずっと12節の終わりまでに至るわけです。21:12.09

12節[ですから、ちょうど、からだの一つでも、それに多くの部分があり、からだの部分はたとい多くあっても、その部分が一つのからだであるように、キリストもそれと同様です。]

そして、6節。『神の働き』っていうところに該当と言われるのは、いわゆる『愛の章』と言われる13章が、それに該当するんです。21:34.42

なんで、ここに急に、『愛は、・・・愛は・・・』と、入れられたのかというと、『神の愛の働き』というものが、諸々のキリストの体があるけれど、それらを1つにしていく、それが『父なる神』なんだよと、そういう繋がりになってます。22:32.49

ここまでやって来て、私達は、いったい、1.2.3.の段階のどのあたりかな？って、思いますか。
さあ、そのところが7ページのところに書かれてあることです。23:12.58

で、第二段階はそれぞれの賜物を用いて、バラバラな一人、ひとりが結び合わされていく段階です。

第一段階で、賜物を受けるということは、以前の状態に比べて、大変、エキサイトするはずですが、しかし、その段階では、まだまだ、個人レベルの活動にと留まっています。自由で活発なのは良いですが、聖霊の力の現れにほんの少しの肉の働く機会をより受け入れてしまうだけで、『聖霊の祝福』は、潤ってしまうことになります。賜物を持ったひとり、ひとは、互いに結び合わされ、ひとりのキリストを形成していくように、召されていくことを知らなければなりません。聖霊が、奉仕、務めに変化していくのが第二段階です。24:07.21

ですから、前半に言いましたように、主なる神と聖霊との私たちの立たずまいは、その深さ、そのめぐみの中にいて、聖霊は、我々の内から、我々の存在を閉じ込めておきません。解き放っていきます。自分を解放させていきます。そして、人を愛する器へと駆り立てていきます。そうすると、出会う人々が、できてくるわけ。出会う人々が、できてきて、出会う人々が、互いに愛し合っていく。祝福し合っていくんですよ。

5C⑧キングダムセミナー20250809

ですが、何も出会いに行かなくなつて、自分の家族、親族がいるわけじゃないですか、みんな。毎日、顔を合わせてる人もいるよね。ずっと今まで顔を合わせていた人達が、今度、顔が変わってくるわけですから。出会い方、暮らし方が違う。そうなります。

言っておきますが、いやいや・・・、ニコニコとしていい顔しないと、クリスチャンではないとか言ってるんじゃないですよ。その、周りから言われて、させられてするというのは、ないです。内なる御霊との現れの中で、もう、そうになってしまうんです。それが大事ですから。

ところが逆に、何か勤めがあったら、できることがあったら、バンバンやりたいという、そういう、やりたい、やりたい人たちは、ブレーキがきかなくなつて、自分の性質も合つて、ガンガン、バリバリやります。それによって、そのグループも集まりも活気が出てきて・・・って、いうことになるんですけど、その 7 ページの 3 段目の"ですから"ってところから、ちょっと読みます。↓

ですから、預言の賜物があるから、その人は教会で預言者の務めを持つのではないのです。単なる預言の賜物が“預言者の務め”となっているためには、どうしても次へ至る啓示が、必要なのです。いかにキリストの体の各主体として、頭なるキリストに結びつくか、まだ、互いを主体として受け入れ、組み合わせられていくか、そこには、一遍の独立心も競争心もプライドも、自己満足感も、集団の中でのそのことによる自己承認欲求も、すべて処分されてしまうほどの神が築き上げる『キリストの体の啓示』がやってこなければなりません。 28:40.71

この『キリストの体』とは、これまでの地方教会や教団とかの概念を超えたものでもあります。ここ、大事ですよ。

さっき言った、我々の"古き魂的な"カスが残っていると、人の好き嫌いや自分に合う、合わないとか、あるいは自分のそれこそ、さっき言った自己承認欲求の延長線上にあたり、独立心、競争心、プライドの駆け引き・・・こういったものが、その中に紛れ込んで、キリストの体と言いながら、つまづきを与えてしまう。と言うことが起こりかねません。 30:04.90

だから、いかに、前半に今日言いました《主の内にありて》、《今、目覚めているか》、《喜び楽しんで充足しているか》それが大切なんです。

その下の段落を読みます。↓

賜物そのものは、非常に力強いものであっても、この 2 段階に至らないために、私たちはなんと多くの不必要なつまづきを、この世に与えてしまうことでしょうか。私たちこの世の教会のほとんどがまだこの第一段階にいたることがわかります。この集会の目的は、この第一段階を出発して、神の目的とするところに突き進むことにあります。奉仕には色々ありますが、それはみなひとりのイエス・キリストなのです。賜物を受けそれが互いに潤しく結び合わされ、キリストの頭としたひとりの体として機能するようになる時、その時によりやく父なる神ご自身の性質が現れ始めます。単に《聖霊の現れ》ではなく、《イエス・キリストの現れ》

でもなく、いよいよ、《父なる神の現れ》の段階、これが第 3 段階です。

その下の段落（8 ページ 2 段目）。↓

その時は、“イエスキリストの働き”、すなわち“父なる神の働き”となります。神がキリストの体なる教会に満ち満ちておられること。これが本来あるべき姿になるのです。その時、神自らが十全に、ご自身を教会に委ね、この世の中での力、性質、栄光を現わすことがお出来になるのです。32:20.97

第一段階で、信者ひとり、ひとりが聖霊を受け、その賜物を発揮しているのも、確かにイエスの栄光であり、神の栄光であることは間違いありません。しかし、第二段階に達した上で、各々が賜物を使っているのとは、大きな違いがあります。

私たちは、十全なイエスの栄光でないものを“イエスの栄光”と呼び、至極、一部分の“神の栄光”をこれぞ“神の現れ”と言ってきました。計り知れない神の御力を、人間のレベルに矮小化する時に、神がその中に乗り出せないのは当然なことです。神が乗り出すことができなければ、そこに何者が乗り出すのでしょうか。私たちがどんなところまで進むことができるのか、その啓示が来る時、些細なことで満足しておれないのです。世界各地でキリストの体が働き始めますが、その働きは、その国や地方の特色によって違うでしょう。しかし、その驚くべき多様性の中で、全ての働きをなさるのは。ひとりの神なのです。

というところで、I コリント 12 章の 4 節、5 節、6 節の区分けに入っています。34:05.38

エペソ人への手紙、4 章の 3 節、4 節、5 節を開いてみて下さい。

3 節[平和のきずなで結ばれて、御霊の一致を熱心に保ちなさい。]4 節[からだは一つ、御霊は、一つです。あなたがたが召された時、召しのもたらした望みが一つであったのと同じです。]5 節[主は一つ、信仰は一つ、バプテスマは一つです。]6 節[すべてのものの上にあり、すべてのものを貫き、すべてのもののうちにおられる、すべてのものの父なる神は一つです。]ってということが強調されています。36:38.16

だから、10 ページの一番下の段落をみて下さい。↓

これまで、「ただ三位一体だから、こういうふうに書かれてあるんだ」としか読んでこなかった私は、はじめて、彼の短い一文を読んだとき、こじつけとしか思えませんでした。（昔はね。）あの時から 17 年、いくつかの教会での生活や牧会の経験からも、今では、明確になっています。神が持つておられる《教会を完成させるプログラム》についての啓示が、現代の教会にどれほど大切なかを。また、これも知るようになりました。神のプログラムに沿っての前進を欲する霊の渇きが、多くの人々の中に起こってきているということを。いくつもの聖霊のムーブメントの中にありながら、喜びと感謝の中にありながら、霊の内では、まだまだこんなものではないと感じてしまうクリスチャンたち。そうです。神は人々が第一段階で満足して欲しくないのです。そんなところで止まって欲しくないのです。

11 ページ

神はみことばを語っておられます。みことばは、霊です。霊と誠で礼拝すればするほど、さらなる成長と、完成へと駆り立てられるのは、キリストにあれば当然のことではありませんか。だから、主に心を定め、御顔を仰ぎ、神の国と神の義を、すべての初めに求めることです。

5C⑧キングダムセミナー20250809

これからの集会において、私たちが神のご計画によって、何になって行くのかを、さらに詳しく知ることでしょう。そして、学び、知るだけではなくて、神が語っておられる"みことば"に、私たちは、成っていくでしょう。成っていきましょう。39:14.56

今、紹介しました教会完成の3つの段階は、これから私たちが学ぼうとするほんのきっかけにしかすぎません。実際に、私たちがキリストのからだとして、健全に結び合わさるには、多くのことを消化し、自分の血と肉としていかなければならないようです。40:06.85

そこで次に重要な学びに取りかかりたいと思います。

これは神の国を知るための実際的な基盤です。↓

《御霊の一致の上に気築き上げる》

エペソ人へ手紙4章を開いて、1節から16節まで読んでいただきたいのです。(今ちょっと、初めのところを読みましたよね。)

教会についての実際的な教えと啓示がこの4章から始まります。

エペソ4章1節「・・・召されたあなたがたは、その召しにふさわしく歩みなさい。」

・・・"召し"すなわち"呼び出し"です。呼び出されたのには、目的があります。「その目的に達するように歩み始めよ」と、使徒は、まず勧めています。

そして、そのふさわしい歩みとして最初の命令が2節3節ということになります。41:13.69

そのところを読んでみます。

2節、3節

[謙遜と柔和の限りを尽くし、寛容を示し、愛を持って互いに忍び合い、平和のきずなで結ばれて御霊の一致を熱心に保ちなさい。]

・・・はい、ここで、『御霊の一致を作りなさい』とは言われていない。『御霊の一致』とは、もう、お分かりだと思いますが、私達は、一つ御霊によって、“バプテスマ”されたんです。42:15.70

本の13ページの《一つ霊を飲むものとされた》って書いてある主題のそのすぐ下のところに、Iコリント12:13が挙げられています。見て下さい。この聖句にあるように、「一つのからだとなるように、一つの御霊によって、バプテスマ受け、そしてすべての者が、一つの御霊を飲む者とされたからです」だといっているんです。

ですから、・・・ここに何人かと向かい合っています。ここに向かい合ってる私たちは、それぞれ内に御霊があります。じゃあ、何人か分の御霊がそこにあって、みんなバラバラの聖霊を持ってるかということ、そうじゃないでしょ。あなたの内の御霊と私の内の御霊は、ひとりなのです。本当に、すごい事です。43:41.90
“あの人の内の聖霊と私の内の聖霊が、ひとりだ”というのを、どう思いますか？「やだあ〜」と、そう思っ

5C⑧キングダムセミナー20250809

てしまいますか？魂的に考えたら。でも、そうじゃなくて、ひとりの御霊が、互いに私たちの内にあるんだということ。

だから、その下をちょっと読んでみますね。13ページの2段目の中程から。

I コリント 12:13 後半[・・・すべての者が、一つの御霊を飲む者とされたからです]これが啓示です。これに目を開かれましたか？どうですか皆さん。[ひとりの聖霊（御霊）を飲んだ]とは、『あなたの内におられる聖霊と私の内におられる聖霊は、ひとりのお方だ』ということです。ここに10人クリスチャンがいたとするなら、10人それぞれに霊が宿っています。すると御霊が10分割され、10人の別々の御霊が存在しているのでしょうか。そうではありません。それはひとりの御霊です。千人になっても、万人になっても、何十億人になっても、ひとりの御霊なのです。

なぜならば、私たちが御霊を生み出したのではなく、聖霊によって、私たちが生まれ変わったからです。ですから、私たちが生まれ変わりをしているなら、御霊を内にいただいているなら、『御霊の一致』は、それだけで、そこにあるのです。45:49.52

私たちに御霊の一致を造り出すことはできません。だから、『御霊において一致せよ』ではなく、[御霊の一致を保て]と命令されています。私たちにできることは、この与えられた御霊の一致を守ることです。すなわち、あなたの内におられる聖霊と私の内におられる聖霊は、ひとりのお方だという現実に目覚め、認め、常に確認しておくことです。あなたはこういう見方で、自分におられる聖霊を考えたことはなかったかもしれません。でも、この"気づき"が神の国を歩むのにきわめて重要です。だから、急いで、先を知る必要はないと思います。ゆっくりと、このすでにできている『御霊の一致』の『現実』を黙想していただきたいのです。47:02.93

もう一度言いますよ。あなたの内におられる聖霊と私の内におられる聖霊は、ひとりのお方です。さあ、そこで想像してみてください。これは普段仲の良い者同士なら、簡単に納得できるでしょう。でも性格が正反対で、いつも意見が食い違っている兄弟ならどうでしょう。さあ、思い巡らしてください。「奴の内にいる聖霊と、私の内にいる聖霊はひとりの方です・・・。」あなたの心の反応はどうでしょう。考えただけでもぞっとします？それとも"ハレルヤ！"でしょうか。生まれながらの人間の反応がどうであれ、[御霊はひとつ、体はひとつ]（エペソ 4:4）なのです。48:07.96

もうちょっと読ませてください。14ページ中段

《御霊の一致が啓示になる》

しかし、勘違いなさらないようにして下さい。このように御霊の一致は、確かに現実には達成しています。でも、これが達成しているからといって、『具体的な知識や意見・考え方においては、食い違ったままでも良い』と言っているのではありません。ただ、「御霊の一致は、すでに確立している」という認識が、無意識の領域までもしっかりと受け止められ、啓示となっていないならば、これから先、いくら使徒・預言者・伝導者・牧師・教師がやってきて教えても、どんなに知識が増えても、サタンが分裂と敵体のクサビを打ち込むのは簡単だということなんです。49:17.14

そこにね、私たちの内の成長、成熟が必要なんです。その幼いままでいいんだと言うことではないんです。エデンの園で、アダムとエゼルケ・ネクドウするはずのエバが造られて、向き合っていた、・・・でも、そこに、狡猾な蛇がやってきたとき、蛇が言った、一言、一言に、そこに惑わされてしまう。そこに、アダムとエバの成熟が必要だったんですよ。だから、エデンの園の現実、今の私たちのこのよちよち歩きの中にある。まさしくあるんです。 50:24.96

14 ページの一番下の段落を見て下さい。

再び言いましょう。“御霊の一致の証拠”を、何か目や耳や感触といった感覚で求めているなら、あなたにとって、御霊の一致が啓示となることはありません。『御霊の一致』は、確立されている“霊の現実”として、神のことばによって、あなたがたの霊に受け入れられる事柄なのです。感覚的なものにはよりません。

意見が一致して、意気統合したから、御霊の一致があるというわけではありません。また、共に集まって、手を握り合い、互いに抱き合い、深い感情の解け合いが、御霊の一致の証拠ではありません。これらは、御霊の一致の上に築き上げられる一つの現れ、結果であり、表現なのですが、多くの場合、知識・意見・行動様式・情緒・感情といったもので、御霊の一致が語られるのを、私は見てきました。

ただし、付け加えておきたいのは、ごく、ごく初歩の人々にとっては、感覚による一致の表現が、その人の癒しになり、助けになる、ということです。励ましになる。でも、そこにと留まらない。それも『御霊の一致についての御言葉』から啓示を得るまでの“補佐”として、です。

どうですか？ここ。

御霊の一致が、単なる意気投合したこと、嬉しくて、手の握り合い、互いにハグをして、「よかった。よかった！」って、それ、素晴らしいじゃないですか。でも、それが、御霊の一致の『根源』ではありません。そういうことがなければ、我々は、「なんか、この集まり、御霊の一致がないよね」って、言うことなんですか？ここを、どうぞ、深めて我々の啓示がシビアに、真剣に受け止められるように、踏み込んでおきましょう。 53:50.68

意見の一致がなくても、だからと言って、“御霊の一致”がなくなったわけではない。・・・けど、食い違ったら、全然てんでバラバラで、「それでいいんだ」と言っているわけではないですよ。真の“御霊の一致”の認識から、深めて、使徒パウロは、“見え方が同じ、一つ思いになれるように”と奨励しているわけですから。

なので、15 ページの《信仰と知識の一致、絶対に必要だからこそ》というところを読んでいきます。

さて、御霊の一致があるからといって、知識や意見、考え方において食い違ったままで良いということではないと言いました。もちろんそのとおりです。魂レベルでも一致を勧めています。

ローマ 15 章 5 節 6 節

[どうか忍耐と励ましの神が、あなたがたをキリスト・イエスにふさわしく互いに同じ思いを持つようになさいますように。 55:12.47

その次、少し込み入った事が書いてあります。15 ページの下から 2 段落目のところをみて下さい。

5C⑧キングダムセミナー20250809

しなしながら、この命令を受けている時点で、私たちが御霊の一致の啓示を本当に持っているかどうかを試されているという良いでしょう。それは、こういうことです。

例えば、あなたと私が集会の奉仕のことで意見が違っているとしましょう。もちろん、対立の程度にもよりますが、もうあんな人とは奉仕できないと考えて、私が辞めるか、あなたが辞めるかのどちらかになるでしょう。通常は、このように離れ離れになってしまいます。

しかし、私たちの内におられる聖霊は ひとりのお方です。とすると、あなたの意見は、もっぱらあなた独自のというより、聖霊の示唆によるかもしれません。また、私の意見も、私に与えられたユニークな味方なのかもしれません。とするなら、「ちょっと待てよ。さようならをする前に、よく語り合ってみる方が面白いのではないか」ということになっていきます。互いの内に生きて働く聖霊が本当に 一人のお方ならば、このように考えない方が、聖霊に対する冒涇だと思わないでしょうか。

考え方の対立が激しく、感情にもつれてしまったとしても、“互いに 一つの御霊を飲んでいる”という現実
に気づき始めるとき、じっくりと相手の思いを聞いてみたいという願いに借り立てられるのです。そして、やがて、知識において、また 一つのヴィジョンの理解と信じ方において、一致が生まれてきます。

私たちは生身の体を持って生きています。経済も物資も家屋も必要です。私と妻とは生活の具体的な面まで一致しなければ生活しにくいでしょう。そのように、クリスチャン同士の中に、教会と教会との間にも、私は激しく一致を求めてやみません。そうです。絶対に必要だからこそ、神は霊のレベルから一致を造り上げて、人間にプレゼントしてくださったのです。信仰と知識の一致に至る土台だからこそ、この無題化で与えられた御霊の一致を熱心に『保つ』ことが必要です。この啓示が定着すれば、後はどんなに楽だろうかと思います。58:05.28

だから、『彼の内には、あの人の内には、私の命がある。』どうですか、これ。クリスチャンがこの言葉を聞いたとき、どうですか。あの人、この人、いますよ。どうしても距離をおき、そこには断絶があり、「あの人はあの人、私は私よ」と、・・・まあ、そうなんだけど、・・・けど、“霊の一致”というものを考えるとき、『我々は、一つ命を与えられているんだ』・・・と、ここまでいくんです。59:08.72

17 ページの 2 段目。

同じ ひとりの御霊を持っているからこそ、たとえ、断絶したとしても、相手のことを裁き、断罪したりしません。彼の内には自分の命があるからです。

“御霊の一致”の啓示がある人なら、断絶という痛みを乗り越えて、常に相手の意見、その心の叫びを知りたいと、耳を傾けようとします。もし、相手にこの啓示がなくて、取り合ってくれないなら、じっとその時を祝福しながら待っておればよいのです。

だから、御霊の一致が確信できれば、焦ることもないし、相手を攻撃することもあります。また、交わりの中で、自分を護ったり、演技したりする必要もないので気が楽になります。

5C⑧キングダムセミナー20250809

ですから、私が主催して集まるとき、初めから、私は次のように言ったりします。

「霊において、一つにされているということが分かっているから、私たちは、"互いにこんなに違う人間なんですよ"ということを念頭において会いましょうよ。"安易に、私たちは同じなんですね"という"いいカッコしい"の前提で会えるのは、やめましょう。"と。 御霊において、一つだからこそ、クリスチャンだと言っても、自分のありのままの素で、いいじゃないですか。1:00:47.71

17 ページ一番下の段から、

私たちの御霊の一致があるからこそ、大胆に互いの個性を表現し、楽しむことができます。

たとえ、個性の表現が肉の表現であったとしても、御霊の一致に自信がある"その場"においては、その人も成熟していくことができるんです。これが御霊の一致に自信のある共同体の力です。私たちは互いに、互いを支配しません。互いを自由にしたいのです。

御霊の一致を無代価で受け取った後に、他の一致は、ゆっくり、確実に、やってきます。御霊の一致とは、どんな相手にもこちらのものを押し付けず、あるがままを、受け入れ、愛しながら、相手も自分もさらに成長していける『**神の賜物**』なのです。1:02:27.74

神の国を考えるパート 1、これが大きな準備となります。

19 ページからの《主との 一致》っていうのは、もうすでにやったんですよ。だから、私たちは、個人個人で、しっかりと主と一致し、主の内で喜び楽しむ、そこに、どっぷりと浸かりながら、ちょっとずつ周りの人のことを、目に留めていくと、あの人にも、この人にも、私に与えられたのと同じ、御霊の内住があるんだよねって・・・1:03:44.84

だから、相手を変えようなんて言うよりも、自分が御霊の中で変わっていけば、それが向き合っている相手に響いていきます。1:04:02.62

はい、何か質問や言いたいことがありますか？

参加者:質問、よろしいでしょうか？

教会の成長の3段階のことなんですが、2段階目の奉仕と3段階目の働きとか、・・・、違いがよく解らないので、もう少し、詳しく教えて頂けませんでしょうか？

先生:はい。そうですね、いつもここの話をすると、同じように聞かれます。3段階目の状況って、どんなんですか？ってよく聞かれます。私もその状況に生き切ったことがありませんので、私も聞いてみたいところです。(笑)・・・ということなんですけれどね、(I コリント 12:5)ここに[奉仕にはいろいろ(な種類が)ありますが、仕える主は同じ主(イエス)です。]とあります。キリストの体に結びついた"調和の取れた働き" "組み合わせ方"っていうのがあります。なので、そういういろんな地方で、いろんな所で、キリストの体とし

5C⑧キングダムセミナー20250809

て組み合わせられた“奉仕の働き”というものが、あっちこっちにあるものが、もっと 1つとされて、・・・それは、そこに神の愛が啓示となって、全てのキリストの体が、神の愛を自分のものとして受け取り、そしてそこに、父なる神が一つの働きとして愛し用いられていく姿なんです。

いろんな地方やいろんな国にあるキリストの体のその奉仕、動きっていうものが、向こうとこっちはなんか知らんふりしているとか、切り離されているとか、関係ないとか、あるいは特には、歪み合っているとか、対立しているとか、それはとんでもないんです。1:07:41.24

だから、それは我々個人のうちにプライドがあり、なんか色んな小さな肉のかけらが寄せ集まって問題になっていく。キリストの体の中でのギスギス感もそうじゃないですか。ところが、それらが全部、聖められて、神の愛の中に統率されていく。調和されていく。ハードにされていくという姿。我々の内に。

1段階であったとしても、ほんとに、その姿に、恋こがれますよね。

どんなにキリストの体として、「ああ、ここのキリストの体は、素晴らしい」と言ったとしても、どんなに賜物が、よく使われていたとしても、アガペイの愛がないならば、やかましいドラやうるさいシンバルと同じだというわけです。

だから、そこに至るには、本当に、無限ですよ。「こうこう、こういうレベルになって、この箇条書きした条項を満たしたら、はい、3段階です」っていうようには書いてないし、そうじゃないわけよ。だから、そこに至るには、『永遠』がそこにあると言ってもいいんですよ。

私たちの知っているところは、一部分である。それは、どこまでいっても、異言することも、預言することも、一部分だ！どんなにキリストの体が現れて、調和よく動いていても、まだ、発展途上なんだと。

完全なものが現れたら、不完全なものは、廃れていきます。そういうことです。子供であった時には、子供として話し、子供として考え、子供として論じていた。青年の時には、青年らしくそうだったと、でも大人になったときには、変わってしまったと。1:11:00.33

今、私たちが鏡にぼんやり映るものを見ている状態がどうなのか、その細かいところまでは、分かりません。第3段階のことは。でも、究極的に永遠のそのときには、顔と顔を合わせて見ることになる。私たちは今、一部を知るが、完全に我々が知られているように、私たちの完全に知るんだと。こういう書き方をしているんです。これってさ、私たちは、科学的に、分析的に、こうこう、こうなって、こうなって、こうなるよっていうのを、十全に永遠のゆく手を描きたいんだけど、これって・・・、皆さん、あのヘブライ文学の黙示文学って言いまして、非常に、黙示文学的語り方なんです。聖書独特の。パウロも旧約聖書をもう十全に知っている人ですから、この書き方もね、将来、こうこう、こうなるっていう時にも、今の私たちの日常生活のようなものを駆使しながら、将来のものをこう描いていく。それは言われているその通りの具体的なことを、私達は待っていていいような気がするけど。でも、それって、究極のゆく手を表している書き方なんです。それは、絵なんです。だから、そういう我々は、顔と顔を合わせて、互いに、しっかり見ることになる。民もイエスも。その時には、『私が完全に知られているように、私も完全に知るだろう』という。

1:13.20.07

そして、その究極の書き方をしながら、それに向かっているそれを見つめている『今』が大切なんですよ」と言いたいわけ。『永遠の今』なんです。

だから、『神の愛』だと、私たちが今受け取っている『神の愛』は、人それぞれですよ。でも、『神の愛』という映像、言葉自身も、具体的にどこまで、どうなのかこうなのか、ということは、今の私たちに完全に、それが具体的にわかっているわけではありません。大切なのは、神の愛に向かっている、乾いている、今という私たちの姿に要点があるわけよ。

だから、ここのところで、本当に、さっき質問された通りのことを、私は何回も質問されてきました。その第3段階の教会の姿って、どんなんですか。・・・その気持ち、分かりますよ。もうそれ具体的に知りたいよね。けど、それは、それに向かって乾いて、私たちが一緒に向かっていく、その『希望』なんです。

だから、いつまでも、残るものは、『信仰』と『希望』と『愛』なんです。主との相互内在の関係に入って、聖霊によって生きるというそれは、私たちの『信仰』によりますよ。そうでしょ。ところが、キリストの体に結び付けられて、互いに結び合わされて、築き上げられていこうというそれは、これから私たち、個人、個人が集まってどうなっていくか、『希望』が現れているわけです。そして、その希望の果てには、何があるかっていうと、『愛がある』という一言で、パウロは、ここで締めているわけです。神の愛ということ。

1:1604.56

黙示文学的な書き方っていうのも、旧約聖書だけじゃなくて、新約聖書にもいっぱいあります。だからなんで、先々のそんな究極的なことを書くかという、今を生きる、今、神国を築き上げる為に生きる、私たちの為なんです。この今を強調する為なんです。遠い先のことを言いながら、そういう聖書の書き方、現し方があります。そして、今という、まずは、不完全な時と、永遠という完全な時との間の繋がり、そしてそこへ向かっていく流れというものを見つめるしかないんです。1:17:36.27

どうですか？そこはほんとに今の質問の通り、誰もが考えてしまうところです。私も考えてきました。他にありますか？

参加者:はい。コリント 13 章の 12 節後半[私が完全に知られているのと同じように、わたしも完全に知ることになります]というこれは、我が内におられる聖霊によって、知ることができるようになると、捉えて良いのでしょうか？と、いうことは、さっき言われた第3段階というのは、自分の知識では理解できないんだけど、聖霊は、それをご存知だということは、自分の内にその答えがあるというふうに捉えて良いということですよ。

先生:そうですね。我々の内の御霊は、知っている。

参加者:それが、どういうかたちか分からないけれども、少しずつ顕わにされていって、いずれはそれを知ることができるという、そういう段階にまで至ることができるというふうに、解釈していいということですよ。

先生:そうですね。聖霊によって、今、私たちは、一部分しかまだ得ていないけれども、その時が来たら、私たちが完全に知られているのと同じように、私も聖霊によって、完全に知ることになるのだ。だから、我々が

5C⑧キングダムセミナー20250809

が、今のままでずっといくんだという、そういう発想はありません。聖霊によって、私たちは、開かれ、教えられ、自分の中に、造り上げられていく。我々はもっと変貌していくんだと。あなたはもっと変わっていただけるんだと。御国のクリスチャンは、これがよく分かっています。

参加者:だから、聖霊は、一つなんだから、私達1人ひとりが、解き明かされていく中で、分かち合うことによって、分かち合ったそのレベルまで、それが、引き上げられていくという、聖霊の働きを捉えて良いということでしょうか。

先生:そうですね。

参加者:ひとりだけじゃなくって、ひとりが受けたものは、霊が同じなんだから、全てが受けたものとして、それを共有できるというか……。

先生:だから、一つの集まりの中で、みんながいつべんに、パッと、成熟するんじゃないわけ。誰かが、その限界を突き破って、ストーンと、頭が抜ける。あるいは、壁を突き破る。そうすることによって、後の人がドオーっと、続いて行ける。だから、そういうふうに、誰が何処に、どういうふうに用いられるかは、わかりません。だから、主は組み合わせて、それを用いていきますから。

参加者:ファーストペンギンですね。

先生:そうそう、ファーストペンギンになる人が、顕わされてくるんです。

ドボーッと、飛び込んで、突き破る。

参加者:だから、それは、すごく楽しみですよね。自分は、受けないかもしれないけれど、他の人が受けてくれば、それを自分のものとして、受け入れることができるというのは、それはすごいことだと思っていますよね。

先生:アーメン！そういうことです。

はい、時間がきてしまいました。では、8月のキングダムセミナーは、ここまでとします。

一言祈ります。心合わせてください。天の父よ。ラインの皆さんも、そして対面のここにいる皆さんも、そして録音で聞くお一人おひとりも。

その飢え渴いて集中しようとするその心に、その魂に祝福があれ。

主は、全てを用いていて、用意して、

内なる御霊の動きの中に、私たちは歓迎します。そして私たちは、その中で、自分の信仰をもたげ、使っていきたいと思います。イエスの御名によって、これらを語り宣言します。

アーメン！はい、有難うございました。